

なんば広場 幹事会議事メモ

日時： 2024年12月6日(金)13:00~15:20

場所： 準備委員会事務所(河原センタービル)

参加： 戎橋筋商店街 菊地氏、青木氏(途中退出)、山本氏(途中出席)
なんさん通り商店会 木村氏、丹野氏、木本氏
高島屋 藤原氏、井原氏
マルイ 田中氏
南海電鉄 平木氏、入江氏、大前氏、廣田氏、稲元(記)
HBP 泉氏、岸本氏

1. 今週の論点

(1) 今年度の広場でのイベントについて

①【共有】まちなかミュージックについて

(ミナミまち育てネットワーク 田原氏・菅野氏より資料の通り説明)

- ・公認の路上ライブイベント(「LIVE EFFECT」)を定期的になんば広場で実施したい。
本取り組みは、騒音等のまちの課題解決、及びアーティストの育成を目的としている。
将来的にはミナミエリアに、面的に公認路上ライブスペースを確保し、なんば広場はそのハブ拠点となれば良いと考えている。
- ・なんば広場における定期的な音楽ライブイベントの実現可能性を検証する社会実験として、2月10日/20日に、利活用エリア①に3か所エリアを設定し実施したい。
- ・準備委員会としても、スポット利用という形で路上ライブの取り組みを検討してきたが、警察協議が難航したことから、実施に至っていない。準備委員会がスポット利用の実施を通して目指す広場の活用の姿と、本取り組みは目的が一致していると捉えられるため、実施してはどうかと考えている。(廣田氏)

(上記内容を踏まえて質疑応答・ご意見)

- ・出演者の選定はどのように行うのか。(木村氏)
→今回は出演者のクオリティを担保するために、ミナミまち育てネットワークで選定する。(田原氏)
- ・出演料の仕組みはどうするのか。(木村氏)
→ミナミまち育てネットワークと出演者間で金銭のやり取りは発生しない。ライブ開催時の物販の売上げが出演料の代わりとなり、出演者にわたる仕組みを考えている。(田原氏)

- ・維持管理協力金はミナミまち育てネットワークが支払うのか。(木本氏)

→本取り組みはスポット利用と捉えている。現状、スポット利用の金額を定めていないため、維持管理協力金を支払ってもらうことは難しいと考えている。(入江氏)

→これはスポット利用ではなく、全面利用だ。(木本氏)

→費用をもらうかは別の話だが、これは全面利用だ。定期的に開催するかは再度検討する必要があるが、社会実験として一回やってみても良いと思う。(木村氏)
- ・音響機材は誰が用意するのか。(青木氏)

→大きな音の出ない携帯型の機材を指定して出演者が自ら持ってくる。指定外の機材を使用するようなアーティストは出演しないように、運営側で選定している。(菅野氏)

→商店街や地下街に音が響いてしまうことはないのか。また、3か所同時で実施すると、音が重なってしまうのではないかと。(青木氏)

→検証してみないと確かなことは言えないが、騒音にならないように運用する。(菅野氏)

→JR 柏駅では、この運用で上手くできている。(田中氏)

→音が重なるかどうかも含めて、社会実験として検証していきたい。(田原氏)
- ・一般の方がイベントして捉えず、通報される心配はないのか。(青木氏)

→看板を設置するなど、周知を図る。(田原氏)
- ・これまでの警察協議では、投げ銭/物品販売が認められなかったのではないかと。(井原氏)

→一個人の利益となるという解釈から、これまで認められていなかったが、今回は公益的な団体が主催となるため、実施可能ではないかと考えている。(岸本氏)

→上記の整理から、実施できるかを再度協議する予定である。(廣田氏)

→今回の検証は、スポット利用に繋がるものなのか。(井原氏)

→これまでの警察協議を踏まえて、当初考えていたスポット利用の運用は、安全管理の観点から実施は難しく、全体を管理する団体がいないと現状は実施が難しいと考えられる。(入江氏)
- ・物販の位置づけ等、今回の実施が将来の本格運用時の不都合な前例とならないよう、整理する必要がある。(井原氏)

→物販については、今後ほこみちが適用されたら自由度が高まると考える。(岸本氏)
- ・当初考えていたスポット利用(全体管理を行わず実施する仕組み)は、ほこみちを適用すれば実施できるのか。(藤原氏)

→ほこみちの適用は、営利的な観点の緩和は期待できるが、安全管理面の自由度は変わらないと考えている。スポット利用に対しては、安全管理面の指摘だったため、実施は難しいと考える。(入江氏)

- ・物販の押し売りなどが起きないように、ルールをしっかりと定める必要がある。(木村氏・木本氏)
 - これまで他施設で実施した際は、我々がいる場所で物販を実施しており、これまで押し売りのようなことは起きていない。(田原氏)
- ・各アーティストが現場で物品販売ができるならば、少額でも準備委員会に維持管理協力金が入るようにするべきだ。また、長期的な取り組みとして考えているのであれば、展望について教えていただきたい。(木本氏)
- ・今回の社会実験が、今後の広場運営にどのように繋がっていくのか、改めて検証項目について教えてほしい。(菊地氏)
 - なんば広場の掲げる「新しい文化・プレイヤーを創出する/応援する」というコンセプトに沿った取り組みとして、これまでスポット利用の運用を検討していたが、ほこみち適用後もスポット利用の運用は難しいことが見込まれる。ミナミまち育てネットワークから提案のあった「LIVE EFFECT」は、準備委員会が検討を進めていたスポット利用と同じ目的を持って実施されるため、本イベントを通して、アーティスト支援が実施できるのかをまずは物理的な面から検証したい。(入江氏)
 - 将来的には、本取り組みを広場の収益源としていくのか。(菊地氏)
 - 以前の議論では、スポット利用は収益源の1つとして捉えるのではなく、文化を創出することに重きを置いた取り組みとして実施していく方針だった。(岸本氏)
- ・理念をきっちり定める必要がある。かつ、難波交差点で路上ライブの課題をしっかりと調査し、なんば広場と御堂筋が一体となって仕組みをつくらなければ、路上ライブの問題は解決しないと考える。(山本氏)
 - ゲリラ的に路上ライブをしている人は、簡単にルールに従わないだろう。(木本氏)
 - 警察にも協力を求め、実施する必要があるだろう。(山本氏)
- ・ステージや物販ブースの設えはどうなるのか。(木本氏)
 - ステージは台を置かず平場を予定している。物販ブースの設えについては、警察協議等を踏まえて検討していく。(入江氏)
- ・グランフロントや西九条で実際に取り組んでいる仕組みを研究して、難波に適した仕組みを作っていきたい。(田中氏)
- ・机椅子はどうするのか。(藤原氏)
 - そのままを予定している。(廣田氏)
- ・なんば広場内でライブをすることで、今後広場内の非公認の路上ライブが誘発されるのではないかと。(木本氏)
- ・イベント自体の検証項目や運営方法、イベント後に広場で路上ライブが増えないための対策案について、もう少し具体的に内容をつめていただきたい。(菊地氏)

(結果)

⇒まちの課題を解決するための仕組みについて、当日の運営方法の詳細について、もう少し内容を整理してもらい、検証項目の設定を含めて、次回(次々回)の幹事会にて、再度説明してもらう。

②【共有】年度内利活用スケジュール

(入江氏・大前氏・廣田氏より資料の通り説明)

- ・12月31日実施予定のカウントダウンの協議では、特にプロジェクションムービーの放映の安全性の確認が残っている。11日深夜に現地確認を行い、安全性を確認する。
- ・大阪府市禁煙ルール改正啓発催事では、府知事・市長の参加を予定している。維持管理協力金の減免依頼があったため、内規に基づき50%減免とするのはどうかと考えている。
- ・なんさん通りの完成も含めた事業完成式典を、3月31日(予定)に実施するのはどうかと考えている。実施する場合、ご来賓や神事の有無についてご相談したい。

(上記内容を踏まえて質疑応答・ご意見)

- ・大阪府市喫煙ルール改正啓発催事について、催事内容について教えてほしい。(木本氏)
→広場半面を利用し、ステージ上で芸人による漫才やトークショーを実施したのち、来訪者に対して啓発チラシの配布と、発信のための囲み取材を予定している。(大前氏)
- ・事業完成式典について。メディアへの露出が高まる方が注目も高まるため、ぜひ実施したい。なんさん通りだけでなく、なんば広場の含めた本格運用記念式典として、なんば広場で実施するのはどうか。マスコミに来てもらうために、知事を呼ぶべきである。また、なんさん南北通りについては交通安全祈願もしてもらいたい。(木村氏)

(結果)

⇒大阪府市喫煙ルール改正啓発催事については、50%減免とする。

⇒事業完成式典は実施する。今後、予算を考慮しながら計画を立て、日程は来賓のスケジュールを優先して大安吉日にこだわらず調整する。

③【共有】宝恵かご行列実施計画

(廣田氏より報告)

- ・往復どちらもなんば広場に入る予定である。
- ・宝恵かご行列として、メディア対応を広場で行うとのことである。
- ・机椅子は当日撤去する。

(2) 【意見交換】社会実験②のほこみち期間について

(入江氏より資料より報告)

- ・ 社会実験②の期間は、3年程度が必要だと考える。

理由は主に2つ。

1つ目は、デジサイの収益性の検証に時間がかかることである。デジサイで放映する広告物は、毎年12月に開催される屋外広告物審議会によって承認されないと、規制の緩和が難しく、音無し動画での広告収益を検証するまでに、時間がかかることが予想される。

2つ目は、来年度は万博特需によりイベントが多くなることが予想されるためである。以上より、1年間のデジサイの収益検証期間や検証のとりまとめ期間、構成員の意思決定に必要な期間等を確保する必要があると考え、社会実験②の期間は3年程度が必要になると考えられる。この点については公募要項に関わることなので、情報管理の面から大阪市から明確な見解を示してもらえていない。

- ・ 法人化するタイミングについてだが、本格運用時の公募の際には、応募時から運用開始までの間に法人化するのではなく応募する段階で法人化しておいてほしいと大阪市から話があった。また、応募時点で実績のある団体であることが望ましいため、各構成員内の意思決定の困難が想定されるが、社会実験②の途中(2027年度前半)で法人化する必要がある。

(上記内容を踏まえて質疑応答・ご意見)

- ・ 緩やかな動画での実績ではなく、本格運用時と同様の音無し動画での実績でないと、法人を設立する社内決定を取ることは難しい。(藤原氏)
- ・ 社内決定をするには、音無し動画での運用実績がとりまとまらないとできない旨を大阪市に伝え、この前提を変えないようにしてもらう必要がある。(田中氏)
- ・ 社内説明を通しやすくするため、大阪市内に見解書を提示してもらえないのか。(山本氏)
→ 準備委員会で用意した資料を大阪市内に確認してもらう方法を検討する。

(3) 【意見交換】デジタルサイネージのデザインについて

(岸本氏より資料をもとに報告)

- ・ 以前の幹事会の議論では、デザインの検討が課題に残っていた。
- ・ なんば広場をデザインしたE-DESIGNの意見も募り、新案・L字のデザインを出してもらった。
- ・ 新しいデザインで進めていく場合、公募の際に提案として提出する。

(上記内容を踏まえて質疑応答・ご意見)

- ・ 以前までの議論では、液晶に触れないデザインを前提に提案してもらっていた。その視点はなくなったのか。(木村氏)

→最も懸念していたことは、液晶に触れないことより自転車の衝突だったと考えている。そのため、L字の提案では、液晶の高さを上げ、自転車衝突の懸念を解決してもらっている。(廣田氏)

- ・前に座れるようなデザインでは、広告価値が下がるのではないか。(井原氏)

→座高より高い位置に液晶を設置すれば広告価値を確保できると、CYUJOさんは話していた。(岸本氏)

→立つ人もいるので、座れない形状とする必要があるのではないか。(井原氏)

- ・自転車衝突等のリスクもあるが、故障については防犯カメラや保険を活用することで済むことである。リスクのためにデザインを不自由にする必要はない。(木村氏)

(結果)

⇒形状は以前の台形型ではなく、L字をもとに検討していく。

⇒画面の下側には座れないようにする。

(4) その他

①1月の幹事会の開催日について

- ・幹事会

10日(金)16時～ @河原センタービル3階会議室

24日(金)13時～ @準備委員会事務所

※公募の公表状況によっては変更あり

- ・委員会

17日(金)10時～

②自転車押し歩き啓発について

- ・自転車押し歩き啓発を 12/20(金)幹事会終了後(15時頃)に実施する。ご協力をお願いしたい。(平木氏)

2. 広場のイベント予定

- ・12/31(火)：カウントダウンパーティー／主催：大阪活性化事業実行委員会 ※協議中
- ・1/16(木)：大阪府市喫煙ルール改正啓発／主催：大阪府健康づくり課※協議中

3. 今後の日程

- ・12/20(金) 13:00～15:00 幹事会 @準備委員会事務所

以上